

全日本仏教徒会議

来月、兵庫大会

一日・二日 準備に大忙し

「人類の不安にみ仏の光を」のテーマのもと十月一日～二日に行なわれる第十三回全日本仏教徒会議兵庫大会が目前に近づき、地元兵庫県仏や全仏事務局では最後の準備に追われている。



月四～九日（姫路・ヤマトヤシキ美術画廊）、七月二十一日～二十三日（神戸・兵庫県民会館）では現代名僧墨蹟展が開催され、大変好評を博した。

大会の方は、式典・部会のほか、記念講演として百万遍法主林露法台と瀬戸内寂聴師がそれぞれ行なうことになっており、多数仏教徒の積極的な参加をお願います。

開催要項

一、会議

- 第一部会（実践） 神戸文化ホール
- 第二部会（檀信徒） 神戸中央体育館
- 第三部会（婦人） 神戸市婦人会館
- 第四部会（青年） 神戸文化ホール
- 県仏代表者会議 総合福祉センター
- 宗派代表者懇談会 兵庫大仏・能福寺
- 一、日程（第一日）十月一日
 - 受付開始八時、大会式典九時、記念講演十時（林露法台下）、総会十一時、昼食十二時、部会一時半
- （第二日）十月二日
 - 神戸市立中央体育館
 - 神戸文化ホール

受付開始八時半、記念講演九時半（瀬戸内寂聴師）、総会十一時半、閉会式十二時。

【写真は好評の現代名僧墨蹟展】

第二十四回大会は

三重で開催

高田専修寺中心に

第二十四回全日本仏教徒会議は、昭和五十一年五月十六日、十七日の両日、三重県仏教会および全仏主催で開催されることに決定した。三重県仏が浄土真宗高田専修寺を中心に行なうものであるがすでに大会開催の経緯ある岐阜、愛知の両県仏の協力を得、現在早くもその内容について熱のこもった検討がなされている。

時局対策委員会開く

一 仏教保育問題

去る八月九日全仏会議室において時局対策委員会が行なわれ、先ごろ国会において自民党が強行採決をした「私立学校法等の一部を改正する法律案」の幼稚園問題について今までの経過を出席の方々からお聞きすると同時に、今後の問題点について、その方途を如何にするかを話し合った。

出席の委員の方は新聞信雄、大多喜義

忍の両氏と清水谷孝尚氏の代理として塩入亮達、田中昭徳の両氏、古屋道雄氏の代理として小林昭延氏であった。なお、組織局がこれを担当し、今後も継続して審議されることになっている。

残暑御伺い

申し上げます

第23回全日本仏教徒会議兵庫大会のご盛会をお祈り申し上げます

真言宗智山派宗務庁
総本山智積院法務所

- 管主 芙蓉良順
- 宗務総長 別所弘因
- 総務部長 小沢照禧
- 教学部長 岡田昌道
- 法務部長 岡本実良
- 教化部長 斎隆套
- 出張所長 小宮勝憲
- 別院教事

バングラの孤児たち

救援金の伝達式を終えて



アグラサラ孤児院で孤児たちの給食のお手伝いをする一行

バングラディッシュ孤児救援金伝達のため、現地を訪れダンマラーチカ、アグラサラ両孤児院において第一次救援金五百三十万円を伝達した全日本仏教会の鎌田良昭国際部長が帰国し、伝達式の模様や現地視察の状況をつぎのように報告した。

6月24日(火)快晴。

今日はいよいよバングラディッシュへ出発だ。タイ航空三〇三便(ワリット機長)は予定より十五分おくれで午前十時四十分五分バンコク空港をバングラディッシュへ向けて離陸した。十二時五十五分ダッカ

空港へ到着。上空からながめたかぎりでは、この国は一面水びたしの国であった。バングラディッシュを飛つ際に税関員が「何の目的でバングラへ行くのか」と顔をしかめたのを想い出して覚悟も新たに機外に出る。はるか左前方の送迎デッキには盛んに手を振る黄衣の比丘らが見えた。

空港には外務省を通じて前以て連絡しておいた関係上、工藤理事官らが大使館からの出迎えでやって来ていて、通関は大いに助かった。この国は世界中の援助で食べていると言われるだけあって、各国の経済、農業、工業関係のミッションが大勢やって来ていた。空港内の暑さは

格別で、三十一度もあると言わう。文字通り汗でぐっしょりである。通関が終わってロビィへ姿を現すや、ビシユダナン父長が近づいて来て、私とも固い握手を交す。孤児院代表の子供たちからも香り高い歓迎のレイを贈られた。ここでボシユ・ミトラ・バルア君と言う日本語に精通する青年と会い今後の通訳をお願いする。直ちに中古自家用車に乗ってコンチネンタルホテルへ直行した。街並みは丁度カルカッタのスラム街と言った感じである。

日本大使表敬訪問

ホテルで着替えをすませてから、ボシユ君の案内で日本大使館へと向う。アクバルホールと言う古い門柱のある中に小じんまりした大使館がある。突然のことながら小山田隆大使は快よく会って下さった。「このたびは大変なお仕事で……」と言いがらこの国のWFBが分裂していることなどくわしく話して下さった。大使の命で飯塚一等書記官が、これからの救援金伝達に立合っ下さること。直ちに私は大使館の車に乗せられ、ダンマラーチカ孤児院へと向った。

救援金の伝達

孤児院は、ダッカ駅からほど近い所に位置し、敷地五千坪をようすのお寺にある。現在五十二名の少年や幼児達が収容されている。皆こざっぱりとした身なりで整列して私たちを出迎えた。私たちはお堂に入り直ちに心経一卷を誦誦し、終つて子供たちの歓迎の歌をきいた。

ビシユダナン父長は六十七歳とは思えない身軽さで私達を応接間に案内して下さる。私はここで救援金贈呈目録を朗読し、五百三十万円の小切手を父長に手渡した。居並ぶ比丘や関係者は合掌したままである。私はそこで今日までの経過をのべると同時に全仏教会長のメッセージを朗読し、父長に手渡した。父長はベトナム語でとうとうと謝辞を述べられたが、師はその中で「このような多額の浄財を賜り感謝にたえない。両孤児院とも建物に困っていたところなので、有意義に使わして頂きたい」と感激の面持であった。

父長は敷地の視察を求めたので私達は師に従って見てまわった。織物やタイプに精出す成人孤児の姿を見たり、子供達の作っていると言う畑などを見て、池を一巡したところでスリランカより贈られたと言う菩提樹の下で一同記念撮影を行う。

父長が一人の少年を私の前につれて来た。「印パ戦争の時にパキスタン兵に切られた跡ですよ」と少年の手首を見せてくれた。なるほど深い傷跡があり骨がやわらかいせいか手首がブラボラしていた。恐るべき戦争の傷跡を具体的に見せられたことで、いたましいかぎりであった。願わくは、この八つになる少年が、すべてを忘れて成長して行ってほしいものであると祈りながらも目頭が熱くなり思わず少年を抱きしめてしまった。

バングラの国旗は日章旗と類似している。異っている点は、赤丸に緑地と言う

点である。この赤丸こそ独立で流した民族の血であり、緑は豊かな自然を表わしたものである。心のもった夕食を頂き、子供たちの「国歌」を背に私たちは去り難い気持ちもそぞろに孤児院にひとまず別れをつけた。

アグラサラ孤児院へ

6月25日(水) 私達はチタゴンから十四マイル東方の僻地にあるアグラサラ孤児院視察のためダッカ空港へと車を向けた。午前八時三十五分プロップジェット・エンジンがうなりフレンドシップ機が離陸する。昨年の八月のサイクロンでバングラは国土の三分の二を水に浸したと言う。その跡が眼下に鮮やかに展開する。九時十五分チタゴン空港へ到着。ダッカよりも暑い感じである。スカタナン父師や、少女五人が花輪をかけて歓迎してくれる。乗り合いバスにゆられて河畔をゆくと、岸辺にはかつての戦争のツメ跡が各所に見られ、船舶の残がいいたる所に放置されている。一たび雨でも降ると、とても皮靴では行けないといわれていた私たちは、アグラパッドホテルで身仕度をととのえ、皮靴からキャラバンシューズに変身、午後二時に出迎えの車で孤児院へと向う。

孤児院はチタゴン市グジュラノアパラ

郡東グジュラノ村にある。舗装路から左折すると田んぼのあぜ道である。小型車がかよと通れる程度の粘土層の道をゆくこと二十数分。やがて田圃の真中にアグラサラ孤児院が見えて来た。強烈な陽光はむしる肌にも痛い感じである。ああ、と

うとう来てしまったんだと皆感慨深いものがあつた。

男女総数百二十名が収容されているが中央が本堂で左に少年、裏側に少女と分れて宿舎がある。堂内で読経数分。ピシユダナンタ比丘の案内で、院内外を視察。井戸水も地下水が豊富にわき出しているひとまず安心した。少年、少女の棟にそれぞれ入って歓迎の歌をきく。棟といつても粗末極まりない住居で凸凹の土間が広がっているにすぎない。少女の棟に居合せた若い保母さん達は合掌して迎えてくれた。彼女たちの敬虔な姿に真のボランティア精神をかいま見た感を深くした。

廊下では少女たちが粗末な小型オルガンに合せて、精一杯の声をはり上げて歌っていた。すると一人の少女が足首に鈴をつけて現れ、盛んに踊ってくれた。無心に踊りつづける少女。戸外の広大な田圃から、この貧しい館にも等しく心地良い涼風がふきこんで来る。文字通り何にもないこの館ではあるが、兄弟愛、姉妹愛、師弟愛に充ちあふれた「人間らしい心」がここにはあつたと思う。物質の洪水の中に居る私たちには、とても表現出来そうもない「心」がここにはあると言いたい。

ボシユ君を通じて、この救援金の中には尊い心のこもつた資金が沢山あることを長老にお話した。途中までは順調に通訳してくれた彼も感きわまつたか、涙声になってしまった。私も言葉に窮して、ただ長老と彼の手を握るばかりであ

つた。これこそ仏教徒であるという前に、人間としてすべてをかなぐり捨てた情感の極地とでもいうところであろうか。

お別れと約束

いよいよ子供たちともお別れの時が近づいた。本堂前で一同記念撮影。子供たちの前で長老は私達を紹介し、贈呈目録を示しながら私達の訪問理由を説明した。私は「日本は今世界でも経済的には大国である。しかし、三十年前には皆と同じ運命下に泣いた多くの孤児が居た。しかし彼等は苦難に負けず立派に成長して社会で活躍している。どうか皆も失望することなく、仏の教えに従って立派に成長してほしい。これは私達と皆さんとの約束である。そして大人になったら恵み薄い人々のため手助けになってほしい」とお話しした。別れざわり子供たちは私たちにまつわりつき、ここへ泊ってゆけとせがむ。やがて「幸せなら手をたたこう!」という合唱が始まった。

どこで寛えたのやらなかなかよく知っている。折しも上空には美しい虹がかかり、天地呼応して私達を歓迎しているかのようにあつた。

美しい自然と、やさしい心の比丘や世話人たちに育てられていく子供たちのさようならの声を背に、私達は何度も何度も手を振りながら暮色濃い田園風景をあとにした。

ところで孤児院の日常生活はどんなものであろうか。長老にお聞きしたところでは大要次の通りである。

午前五時起床、洗面、境内を回りながら朝の歌。体操。本堂で読経とお祈り。
六時三十分 朝食
七時〜十一時 ホールで教室開講(小学生男女)

十時〜四時 年長組は市内中、高校へ授業に出かける。

十二時 昼食、休憩

午後一時〜三時 授業(小学生)

午後四時〜五時 清掃、以後自由時間

午後七時三十分 読経とお祈り

午後八時〜九時 復習

午後九時〜 夕食

午後十時三十分 就床

義務教育

バングラでは一般に義務教育が実施されているが、学校数の不足で五百万人の有資格者中、通学出来る者の数は僅少と言う。現在小学校五校、高校五校、カレッジ四校、大学七校という少数学校群では就学させたくとも難かしいようだ。

物 価

ごく最近デノミネーションを実施した結果、物価が高騰し、たとえば建築費なども一坪あたり十四万円、ブロック一〇〇個が一万四千元、セメント一袋二千九百円と、従来の約十倍の高値をよんでいる。

バングラの映画

6月26日(木) 私たちは再度チタゴンからダッカへもどつた。午後三時にダッカ空港へ到着し、直ちにインタコンチネンタルホテルで少憩。ボシユ君の計らいでバングラの映画を見せてもらう。

カラー映画は無いが館内は浴房がきいていて心地良い。題名は「農家の二人娘の物語」。一方が貧しい娘なら一方は金持の娘で、貧富の格差を不当とする内容であるが貧しい娘が迫害をうけるや観客は涙ぐみ、金持娘が不当な行為をするやその反対に不平不満の声をあげるなどいつとも同じ人の情かなと思わせた。

孤児たちよ、健やかに……。
6月27日(金)快晴。午前九時四十分頃、日本大使館へ小山田大使、飯塚一等

バングラよりの礼状

親愛なる法兄

アグラサラ仏教孤児院とダンマラーシカ仏教孤児院への一万八千ドルのご寄進に対して、お礼の言葉もございませぬ。鎌田、山田、北ノ内の三氏は親しく両孤児院をご訪問下さい、六月二十四日に上記金額、確かにお渡し頂きました。

我々仏教徒ばかりでなく、バングラディシユ市民は、皆様の困難に立ちむかっている人々への慈悲とその実践を永久に忘れることはないでしょう。このようにしてはくまれました両国民の友情は永遠に続くことでしょう。皆様の援助はそれを我々が最も必要とした時に参ったのです。皆様への三宝の加護を祈ります。

ヴィシユッタナンダ

書記官、工藤理事官を訪ね帰国の挨拶をなし懇談。終って再度ダンマラーシカ孤児院へおもむく。ビシユッタナンダ長老らと懇談をなしたが、七千五百万人口のうち、僅か五十万人の仏教徒であるが、徐々に増加している由。丁度昼食時で、子供達は廊下でしゃがみこんで夢中に五本パンを動かしていた。私は請われるままに子供達にご飯のサーブスをして上げた。

因みに食事の内容は次のようなものであった。

朝食 チャパティ(小麦粉をせんべい状にして焼いたもの)一枚、とうもろこしの塩いり、野菜。
昼食 米食カレー料理。
晩食 米食、チャパティ、野菜。

別れざむ私は廊下に立ち並ぶ少年達に向って、チタゴンの子供達に話したと同様の訓話を述べる一人一人と握手をしつつなごりおしいこの地をあとにした。空港へはスタンダ比丘、P.V.バルア氏、ホシユ君など、それに子供達十数名

が見送ってくれた。花束に埋まった私達は、熱気と流れ落ちる汗でもはやぐったり、再度この地を訪れることが出来ようか。時折り落ちて来る雨にもめげず、送迎デッキに群がる比丘や青年それに子供たち。幾多の苦難をのり越えて立派に成長し、明日のバングラを背負ってほしいと念じつつ、雨雲の天空へと飛び発ったのである。

(国際部長 鎌田良昭)

寄金残額は早急送る

バングラ孤児院救済寄金八月十二日現在の総計で七百九十五万三千六百六十八円となる。うち第一次分として五百三十一万三千六百円を六月二十四日送付。(別掲鎌田部長手記参照) 残額は早急に送付の予定。なお紙面の都合上、寄付詳細は号をあらためて発表。

日本仏教文化会議

箱根の湖尻富士見荘で

日本仏教文化会議は昨年に引きつづき「人類の未来と仏教」をテーマに、八月二十五日、二十六日箱根仙石原の湖尻富士見荘において開催した。

この日本仏教文化会議は昭和四十三年

授の渡辺格先生が「人類に未来はあるか—分子より精神へ—」、仏教側から大正大学教授勝又俊教先生が「人類の未来と仏教の救い」と題して、それぞれ基調講演をなされた。

昨年は暴風雨の中をめぐらず参加、熱心な討議が「人口問題」に発展し、全仏大会で更にそのことが継続され、仏教界の新しい視点として、各界より注目を浴びたことは記憶に新しい。

今年も御出席の先生、二十三名を得、渡辺 格先生の「ライフサイエンスと人間」(日本経済新聞社刊)を資料の中心として、生命の尊厳、仏教の殺生戒に対する考えを世界人類に対して、如何に流布していったらよいかを語りあった。

このように文化会議のみならず、全仏大会等、諸々の会台において全一仏教運動は年々充実され、発展していくことは喜ばしいことである。(詳細は次号に)

ソ連、モンゴル訪問

団の報告会ひらく

ソ連、モンゴル両仏教会の招きにより両国を訪れていた平和の会一行はこのたび帰国し、その報告会が上野・風月堂で開かれた。

一行はソ連における信仰人口(キリスト教、回教、仏教等)が最近増加し、一説には人口の四〇%という情報さえあったとし、モンゴルも広汎な信教の自由があるようだ」と報告された。

第十一回世界仏教徒会議

バンコク大会日程きまる

2月20日から

第十一回世界仏教徒会議は、明年二月二十日から二十六日まで、タイ国バンコク市の世界仏教徒連盟本部で開催されることに決定した旨、このほどWFB本部より通知があった。

それによると、代表二名、オブザーバー三名が招聘されることになっており、二月十九日中にバンコク入りをする事になっている。日程は次の通り。

二月十九日(木)

全代表団バンコク入り。登録。

二月二十日(金)

午前十時 比丘入堂、読経。

午前十一時 比丘への施食供養。

正 午 WFB本部で昼食。

午後四時 タイ首相開会の辞。

土産物贈呈。

レセプション。

午後七時 タイ演劇観賞(国立劇場にて)

二月二十一日(土)

午前九時 WFB大会運営会議

午後二時 WFB総会

午後四時 茶会、講演会。

二月二十二日(日)

午前九時 部会。

午後二時 部会。

午後四時 茶会、休養。

二月二十三日(月)

午前九時 総会。委員会報告。

午後二時 セミナー。

二月二十四日(火)

午前十時 閉会式。

午後三時 皇室謁見。

二月二十五日(水)

午前八時 車でキッテイアカデミーへ出発。

午後三時 古都視察。

午後四時 茶会。ホテル帰着。

二月二十六日(木)

正 午 解散

全仏ではこの機会に世界大会へ出席し併せて仏教圏を巡る旅行団を次のとおり計画いたしました。何卒多数のご参加を切望いたしております。

記

一、WFB大会参加ボドブドゥール仏跡巡拝団(二月十九日出発、二十六日帰国。費用三十三万円)

一、WFB大会参加スリランカ仏跡巡拝団(二月十九日出発、二十九日帰国。費用三十七万円の予定)

三〇三便

十九時四十五分カルカッタ着

二日(火)

カルカッタの大善提会訪問、市内見学

三日(水)

九時二十五分カルカッタ発タイ航空機

十一時カトマンズ到着、市内見学

四日(木)

カトマンズ滞在

五日(金)

九時三十分カトマンズ発ネパール航空機

十時五分パトナ着、バスでラジギール、ナールンダ大学跡など視察

六日(土)

早朝靈鷲山参拝、竹林精舎参拝、バスでブダガヤの聖地へ

七日(日)

日本寺で第一回結集に参列、夕方バスでベナレスへ

八日(月)

早朝ガンジス河視察、ベナレス初転法輪寺参拝、博物館及市内見学

九日(火)

五時四十五分ゴラクプール着、バスでクシナガラ涅槃寺参拝

十日(水)

十時ゴラクプール発の列車でノールへ

国際仏教徒の大集會

「第一回ブダガヤ結集」

インド仏跡巡拝団員募る 12月1日から14日間

釈尊成道の聖地ブダガヤに日本寺が建立されて三年を迎え、この機をとらえて「第一回ブダガヤ結集」と名うって国際仏教徒の大集會が企画され、本会加盟国際仏教興隆協会のご協賛のもと、本会では左記の通り、日本仏教代表団を派遣することにいたしました。

本会ではこの良き機会に、釈尊の四大仏跡である誕生、成道、初転法輪、涅槃の聖地を巡拝する日程を作り、広く一般

一、日程

十二月 一日(月)

十二時四十五分東京発印度航空機

募集要項

十二時十八分ノーガル着降誕のル
ンビニ一参拝

十九時三十六分ノーガル発列車で
バルランプールへ

二十時三十分バルランプール着
十一日(木)

午前中祇園精舎、舎衛城跡参拝
十二時四十二分ゴンダ発列車でラ
クノーへ

二十時四十五分ラクノー発
十二日(金)

九時四十分アグラ着、タジマハー
ル、アグラ城、救ライセンター訪
問、午後アグラからマツラー博物
館見学のちデリーへ

十三日(土)

デリー市内視察

十四日(日)

七時三十分デリー発印度航空機三
一〇便にて東京へ

二十二時三十分東京着

一、参加費用 四〇万円(一名)

一、申し込み 全日本仏教会国際部宛、
申し込み金五万円を添えて。加盟
各宗派・県仏・団体をとうしてで
もけっこうです。

一、締切 十月三十一日迄

※ご不明な点は左記へお問合せ下さい
全仏国際部(電話〇三二八四三二六
三四一〇三三)

千代田トラベル(電話〇三二四〇七
一三六一二)

主催 財団法人 全日本仏教会
協賛 (財) 国際仏教興隆協会

中華民国仏教会親 善訪問団が来会



去る七月二
十八日十時半
頃、釈道安師
を団長とする
中華民国仏教
会親善訪問団
第一団の方々
(うち僧侶七
名、在家者二
名)が全日本
仏教会を訪問
された。

一行の方々は今までは日本の各宗派の
方々と直接に親善交流されていたが、こ
れからはお互いの窓口を通して一層日本
の仏教諸宗団と交流を深めていきたいと
話し合った。

全仏からは「全国寺院名鑑」と来訪の
諸師に「念珠」を記念として贈呈、中華
民国仏教会親善訪問第一団からは「掛
軸」一幅と「中国名刹寺院名鑑」を贈ら
れた。【写真は記念品の贈呈】

東北ブロック会議

―山形でひらく―

去る七月二十三日、二十四日、山形県
上の山温泉月岡ホテルにて第三回東北ブ
ロック会議が山形県仏の担当によって開
催された。山形県仏教会、岩手県仏教会

連盟、北海道仏教会連盟が出席、福島、
青森、秋田の各県仏が欠席。全仏からは
担当の組織局をはじめ、事務総長、次長
以下各局長が出席した。会議は地元山形
県仏副会長板垣隆寛師が議長となり、参
加県仏の本年度事業計画、全仏に対して
の要望が出された。

念法真教 立教開宗50周年記念

念法真教本山・金剛寺(大阪・鶴見
区)では八月一日から四日までの三日間
にわたって、立教開宗五十周年記念慶讃
大法要が盛大に執行された。全仏からは
桜井総長と島田庶務部長が出席しお祝
いを申し上げた。

新刊紹介

「人類の未来と仏教」その1
昨年八月開催した日本仏教文化会議
「人類の未来と仏教」その1―シンポ
ジウムの紀要がこのほど刊行された。
内容は東洋大教授金岡秀友氏の「仏教
の未来観について」、S・F作家小松左
京氏の「人類の未来と宗教」が収録され
ている。

B5版二二三頁。希望の向には頒布す
るので全仏文化部あてに照会するよう。

「老人と性」

わが国の老人問題は先進諸国にくらべ
三十年は遅れていると指摘されている。
その中でも特に無視されているのに性の
問題がある。老人の育った若い時代には

お寺に仏旗をかかげよう

大	たて 150C-よこ 247C	¥13,000円	小	70C-100C	¥ 3,000円
中	90C- 135C	¥ 5,000円	手旗	35C- 50C	¥ 1,500円

別染製 堅牢 (全日本仏教会制定意匠登録済)

各地区仏教会でまとめて御注文の際は価格の御相談に応じます。

財団法人 全日本仏教会

111 東京都台東区西浅草1-5-5 電話03・843・6341~3

全仏輪袈裟 法輪バッチ

こげ茶、法輪マーク付き
¥一、五〇〇円
(今年中一割引)

径一〇cm、ネジ式
¥一、〇〇〇円

全第3種郵便物認可 仏可

封建的性道徳に彩られ、性を不潔なものはしたくないものという見方をした。そういう考えをもつ限り、現代の若者の性の意識や行動を理解することはむずかしいし、それが若者と老人とのかわり合いにはねかえって、世代の断絶となる。

このような問題を解決し、老人の座を人間らしいものに安定させるため、老人の人間性や性の復権を願って、生涯を潤いのあるものにし、老人に対する理解を深める画期的な内容である。

定価二、八〇〇円、送料二〇〇円
【A5・三〇四頁】申込直接左記へ
発行所・日南出版株式会社
東京都文京区本郷六の九の五
電話〇三（八一三）三三〇一

昭和五十一年版 全仏手帳

申込み受付中

全仏総務局では、左記要領にて「全仏手帳」を発行致します。部数に限りがございますので、御注文はお早めに。
内容 三帰依文、四弘誓願、宗門聖日
加盟団体役員住所録、忌日早見表、その他

サイズ 9×14cm（昨年よりやや大）
定価 四〇〇円（送料実費）
出来日 十一月初旬

申込先 東京都台東区西浅草一―五―五
（千一―一） 全仏総務局宛

昭和五十一年九月一日発行
九月号 第二一〇号

全仏で女子職員を募集

全仏事務局では現在女子職員一名を募集しております。

文書等の整理が主な仕事です。三十五歳位までの方、どなたか御紹介いただけますようお願いいたします。

事務総局録事（七・八月）

（七月）

一日 人口問題研究会
パンクラより帰国

八日 三重県仏と打ち合せ

九日 兵庫県仏と打ち合せ

十日 //

十六日 中華民国仏教会訪問団出迎

二十一日 文化会議打ち合せ

二十三日 東北ブロック会議（山形）

二十八日 中華民国仏教会訪問団来会

日宗連理理事会

二十九日 日華仏教促進会二周年会出席
訪ソ・モンゴル報告会出席

三十日 局内会議

（八月）

二日 中華民国仏教会歓迎会出席

三日 念法真教開宗五十周年慶讃大法要・式典出席

九日 時局対策委員会

十一日 念法真教総長来局

二十一日 局内会議

文化会議会場下見

文化会議

二十五日 //

二十六日 //

発行人 桜井大乗
編集人 清胤徹昭

発行所 財団法人

全日本仏教会

第一回 ブダガヤ結集記念 インド仏跡巡拝団員募集

釈尊成道の聖地インドのブダガヤに日本寺が建立されてから早三年、この度ブダガヤに於いて「第一回ブダガヤ結集」をインドのビハール州の知事、高官をはじめ、インド国内在住の仏教徒と開催し、日本寺をひろく皆様に紹介申し上げると共に、併せて四大仏跡巡拝の旅を計画いたしました。この歴史的ともいうべき機会に多数の皆様のご参加をおすすめいたします。

主催 財団法人 全日本仏教会
旅行コース（13泊14日）

東京―カルカッタ（2泊）―カトマンズ（2泊）―パトナ―ナランダ大学跡―ラジギール（1泊）―成道の地ブダガヤ（1泊）、日本寺で第一回結集―ベナレス（1泊）―初転法輪の地サルナート―車中泊―涅槃の地クシナガラ（1泊）―降誕の地ルンビニ―バルランプール（1泊）祇園精舎、舍衛城―車中泊―アグラ―マツウラ博物館―デリー（2泊）―東京

取扱旅行会社
運輸大臣登録一般第154号

株式会社 子代田トラベル

東京都港区南青山5丁目6番20号（千成ビル）
電話 407-3612（代表）
400-5100
郵便番号 107

実施時期 昭和50年12月1日～14日

参加費用 400,000円

申込締切日 昭和50年10月20日

国際仏教徒第一回結集議案

1. ブダガヤ開発計画について
2. 仏教興隆に各国仏教徒は如何に協力すべきか

資料・パンフレットのご請求は右記宛へ

東京都台東区西浅草一ノ五（東京本願寺内）
電話 〇三（八四三）六三四一（三）